

横須賀市議会議員

長谷川 昇

LEAP



はせ
どん 長谷川 昇
はせがわ のぼる

2011年4月～横須賀市議会議員初当選
(3,931票・8位)

所属:総務常任委員会 議会運営委員会等

所属会派:研 政

住 所:〒240-0101 横須賀市長坂3-3-11

連絡先:080-4383-1633

E-Mail:hasedon2@gmail.com

NEW 公式 HP <http://hasedon.info/>

2015年・第1回定例会報告

第一回定例会で代表質問 をしました。28項目80問!!

2月27日、会派を代表して演台に立ちました。
28項目で、80問の質問となりました。約3時間、
市長および教育長に対しての質問を行いました。
下記の内容は、その一部です。



市民の声を「つなぐ」施策の～実現にむけて～

問 「選ばれるまち横須賀」についての効果的な
予算の使い方はどうか。

答 市民満足度を高めることが重要。さらに、
魅力を市外へと発信していく。

問 横浜横須賀道路の値下げだけでなく、土
日・夜間の割引も継続すべきではないか。

答 まず、道路料金の値下げを要望。割引の継
続は、今後の課題です。

問 うわまち病院の建て替えの検討が始まっ
たが、市立の二つの病院のあり方を優先的に検
討すべきではないか。

答 財政負担のことも含め市立病院のあり方
は最優先。今後は、機能分担など地域での役割
について、検討をお願いしたい。

問 国道一三四号の交通渋滞の認識と「市民
病院発なぎさの丘経由、汐入駅行き」のバス
路線の開設についてはどうか。

答 スマートインターチェンジや三浦半島中
央道の開通に対し、今後も要望を行なっていく。
新路線については、京急に要請したい。

問 本人通知制度の実施時期とその内容はど
うか。

答 今年の4月1日より施行する。事後通知型
だが、独自の取り組みとして、過去一年間の住
民票の発行履歴の簡易明示を行う。

問 栄養職員・栄養教諭を全校に配置できな
いか。

答 市費負担非常勤職員の日数を週4日から5日
に変更。また、県に対して増員を要望する。

問 土曜日授業の実施は、課題が多く、時期
尚早と考えるがどうか。

答 課題を整理し、
学校現場の声を聞
きながら、慎重に進
める。



横須賀市2015年度予算が成立しました。

総額 3,161億7,300万円

3月25日、本会議で、賛成多数で、総額3,161億7,300万円の2015年度当初予算案が成立しました。一般会計は前年度当初比1・4%増の1,459億5千万円で3年連続のプラス。財源不足を補うための財政調整基金などからの取り崩しは60億円。

歳出面では、障害福祉や小学6年生まで引き上げる小児医療費助成など社会保障費が13億円の増。情報システム更新で物件費は15億円、ごみ処理施設建設などで普通建設事業費も12億円増加。

1 子育て教育環境の充実

- ◆ 小児医療費助成の拡充 (4月から0歳~小4年生/10月から0歳~小6年生まで無料)
- ◆ 子ども子育て支援新制度へのとりくみ (認定こども園への移行・学童クラブ助成・支援)
- ◆ こども学力向上プロジェクトの推進 (放課後サポートティーチャーの拡充等)

新・英語コミュニケーション環境の充実

- ・ 基地内の大学であるメリーランド州立大学への市民の就学支援。
- ・ YOKOSUKA イングリッシュキャンプ (中高生対象・英語だけしか使わないキャンプ)
- ・ YOKOSUKA ホームステイ受け入れ家庭の発掘・育成

2 生涯現役社会の実現

- ◆ 生涯現役プロジェクトの推進 (ラジオ体操・ウォーキング・生涯現役ガイドブック)
- ◆ 健康寿命延伸のための取り組み (特定健康診査受診率の向上 新・人間ドック一部助成)

3 地域経済の活性化

- ◆ 観光立市の推進 (推進基本計画の策定・観光協会の法人化)
- ◆ 来客の促進 (集客PRの強化・セールス活動の推進)
- ◆ 中心市街地の活性化 新・プレミアム商品券・ご当地カード

4・横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念事業

- ◆ 11月15日小栗・ヴェルニー祭をメインに、4月から1年間、各地で記念事業が展開。

◎うわまち病院の建て替え検討委員会について



うわまち病院は、国立病院から委譲後、リフォームしたものの建設後50年を経ています。あと10年前後で建て替えが必要となるのですが、市民病院も築後43年たっており、やはり、向こう20年くらいの間には建て替えなくてはなりません。▼ひとつの病院を建てるには、附属設備を含めて200億円を要します。2つの病院を建て替えるとすれば、向こう20年の間に400億円もの巨額な財政負担が必要となります。しかし、今回議論の的となっている施設配置適正化計画では、こ

の点に何も触れていません。▼これについて、市立の2つの病院を、「市民病院」に集約統合するなど、検討するべきではないかと質問しました。それに対して、吉田市長は「その方向性は現段階でない。機能分担の検討の推移を見守りながら市の考え方をまとめていきたい」と答えました。▼もし、仮にこのまま、うわまち病院に200億円近いお金をかけて建て替えをした場合に、市民病院も同様に建て替えることができるのか疑問なのです。「将来に不安を残すことなく、今きちんと話し合うべき」と提言しました。200億円以上を要するごみ処理工場の建設は待たなし、それと同時に400億円もの予算支出をすることは、今後人口が減り、36万人(2035年)と予想されることからすれば、財政上厳しいことは明白です。今後も追求していきます。



「住民自治」と決定へのプロセスについて

土屋雄一郎（京都教育大教授）さんと対談 湘南国際村センター 2015. 3. 14

長谷川昇と土屋雄一郎さん（京都教育大）との対談。土屋さんは、ゴミの処分場、公共施設などの建設などで地域住民との間で起こる様々な住民紛争を専門に研究している方です。今回の芦名の震災瓦礫・漁網搬入についても、評論を出されています。



私は当初、意向調査の実施はやらないほうが良いと思った。これまで、うまくいった例がほとんどないからだ・・・(土屋)

▼土屋さんと3時間の対談の中では、基本的に「意向調査」とその背景について、論議をしました。全国各地の紛争がそのまま、地域を荒らしてしまうことが多いのに、芦名と大楠地区がなぜそうならなかったのか、その分析が中心となりました。▼大きな権力が地域に圧力をかけると、権力者に擦り寄る傾向や、外部の活動家グループと結びついて混乱する傾向がありますが、ここではそういったことがなかった。

地元の「つながり」が意向調査の「鍵」だった。とにかく、地域を挙げたプロジェクトだったが、やり遂げたことが大きかった。

▼今回の大楠連町のメンバー自体が、結びつきが強かったことや、地域の役員会もまた、真剣な討議が成立する場であったことが大きかった。▼意向調査については、事前に要項を作り配布し、連合町内会が、意向調査をやるにあたって、要項を作り、できること、できないことを「正直」に、住民の皆さんに対して提示したことが良かった。という評価をいただいた。▼さらに、大楠地域が、日常的な祭りや町内会の様々な活動を通じて醸成されている、（今ではほとんど多くの地域で失われてしまっている）「共同体」としてのつながりが密にある地域だったことだ。これは、地域のお年寄りから受け継がれたものを、新しく転居されてきた方ともつながり、上手にそれが引き継がれている事だ。そのことが、「意向調査」の高い投票率（有効投票総数のほぼ8割）にも現れた。

ミス、トラブルは全くなく、数もぴったり一致 投票率もほぼ8割。

▼町内会の方達の集配機能と、手際良い集約作業で、ミスやトラブルがなく、集約できたことも大きかった。そのことが、結果がどちらであれ、「意向調査」自体が持つ信憑性を裏打ちし、現在行われている住民投票に近い（投票率などからすればそれ以上の）効果をもたらした。▼土屋さんは言う、「教科書に出てくる民主的な住民投票からすれば規格外だが、町内会で自主的にやるとい限定の中で、出来る最善を模索し、やりきったことの意味は大きい。」

報道も、「住民の意思を尊重すべきという論調が強くなる。」

全県から注目され、マスメディアも報道されている中で、「地域を分断させないために」粛々とやりきった。▼自治会・町内会の役員は、「ジャッジメントとして取り組む」ことを確認し、「一票でも多い方を支持する」として、その結果がどちらになるにせよ「意向調査」の結果に従う、と中立性を示したこと。▼ 基本的な、住民自治のプロセスは踏まえた中での「意向調査」だった。たくさんの良い評価をいただき、自分たちのこれからの自治的な活動の指針をいただいた。



統一地方選挙が始まります。

横須賀市議会議員選挙は

4月19日(日)公示・26日(日)投開票

長谷川昇は、4年間の活動「くらし」「教育」「地域」「平和」の四つのスローガンを、振り返りつつ、さらに前に向けて走り出します。ご支援よろしくお願ひします。

教育は未来への架け橋！

くらし (Life)

- 高齢者や障がいのある人も安心してくらす街、震災に強い街づくりにとりくみます。
- 出産・育児、介護等、地域医療の課題や「市民病院」の医療の充実にとりくみます。

教育 (Education)

- 25年間の教員経験を生かし、子どもの学びを保障するための条件整備につとめます。
- 「教師が子どもと向き合う時間の確保」のため、教師の多忙化の解消にとりくみます。

地域 (Areas)

- 三浦半島の多様な生物を保全し、環境問題や地域の課題にとりくみます。
- 西地区の交通渋滞の解消と利便性の向上のために、バス路線の新設にとりくみます。

平和 (Peace)

- 日本国憲法の理念を暮らしにいかします。
- 原子力空母の母港に起因する問題にとりくみ市民の安心・安全が保障される街づくりをすすめます。

公式 HP <http://hasedon.info/> 「はседん」で検索

